資料７

すいたの年輪ネットの経緯

	市域での取組	地域での取組
平成28年～平成29年度	**「高齢者の生活支援と社会参加に関する調査（H28）」の結果を「すいたの年輪ネット」で検討** **①気軽に立ち寄れる居場所 ②地域活動への参加 ③高齢者に必要な生活支援サービス ④高齢者による高齢者の生活支援** **●集いの場の集約、充実・活性化等について検討** ・集いの場交流会で運営団体の課題等を共有（担い手、活動内容や参加者の固定化等） ・吹田市高齢者生活サポートリスト「集いの場編」を発行 **●高齢者生活支援について検討** ・市内の生活支援サービスの集約を検討 ・（仮称）ちょこっとサポーターの仕組み検討	**●高齢者のこれからを考える交流会の開催（各ブロックで開催）** ・地域の強み／弱みを確認 ・地域課題や取組めること等を意見交換
平成30年～令和元年度	**●集いの場支援、高齢者の社会参加促進について検討** ・集いの場の課題や充実方法等について検討 ・移動支援の検討 ・吹田市高齢者生活サポートリスト「集いの場編」を改訂 **●高齢者生活支援サービスの集約** ・吹田市高齢者生活サポートリスト「生活支援サービス編」を発行 **●アクティブシニア養成（高齢者の社会参加促進）** ・吹田市高齢者生活サポートリスト「シニア世代の活動場所編」を発行 ・地域元気アップ講座を開催し担い手養成 **●高齢者生活支援について検討** ・高齢者の困りごと（簡易な生活支援）に対して、吹田の強みを生かした仕組みについて検討 **「助け愛隊」を創設** **対象：一人暮らし高齢者（75歳～） 内容：電球交換、季節家電の入れ替え、大型ゴミ搬出、庭掃除**	**●地域課題の共有・地域ケア会議との連携** ・地域包括支援センター／CSW／生活支援コーディネーターが定期的に地域課題等を共有する意見交換会を開催 **●地域での高齢者生活支援について検討** ・各地域課題を地域団体、地域包括支援センター、CSW等と意見交換
令和2年度～令和3年度	**●アクティブシニア養成（高齢者の社会参加促進）** ・吹田市高齢者生活サポートリスト「集いの場編」をICTツールで公開 ・吹田市高齢者生活サポートリスト「シニア世代の活動場所編」を改訂 ・高齢者のICTサポート（スマホ講座等）を通してコロナ禍の「他者との交流」「多世代とのつながり作り」を開始 ・元気健康フォーラムを動画配信／会場開催 **●ICTツールを活用した高齢者生活支援** ・福祉施設と連携して体操等の動画をICTツールで公開 **●高齢者生活支援サービスの集約** ・吹田市高齢者生活サポートリスト「生活支援サービス編」を改訂	**●コロナ禍の地域での高齢者生活支援を推進** ・大学生、福祉委員会、CSWと連携して「心の交流」をコーディネート **●地域での高齢者生活支援を推進** ・地域課題を地域団体、地域包括支援センター、福祉事業所、CSW等と地域検討会で検討（地域検討会の開催に向けた調整含む） ・地域版助け愛隊創設をサポート ・高齢者向けスマホ講座等の開催をサポート
令和4年度～令和5年度	**「すいたの年輪ネット」で今後取組むテーマを検討** **①助け愛隊活動の充実** ← 活動者のモチベーションUP（ポイント制など）、日常的な活動を追加、吹高連版・地域版の助け愛隊創出 **②団塊世代の社会参加促進** ← 退職後の社会参加、現役時代の経験（技術）活用、企業との連携、具体的なボランティア活動を提示 **③マンション住民の高齢化** ← 自治会との連携、マンション住民同士が交流する「言い出し役・調整役」、地域より身近な居場所（話せる場） **④全世代が参画する高齢者生活支援** ← 若年層によるICT支援＝多世代交流の促進、地域住民同士の自然な交流、高齢者のみでなく全世代対応型 **⑤すいた年輪サポートなび（生活サポート）の活用** ← 高齢者のICT支援の継続、高齢者への周知、情報の収集・更新・発信 **⑥地域づくり支援（地域型生活支援コーディネーターの配置）** ← ①～⑤の地域づくり支援、地域課題／集いの場／住民をコーディネート	